

令和元年9月24日～26日に宮崎県青島青少年自然の家において実施した、令和元年度 教員・保育士採用試験合格のための特別対策合宿A・Bでは対策講座、卒業生による講話、模擬試験等が実施され、教育学部学生2・3年生78名が参加しました。(2・3面)



特別対策合宿でのフィールドアスレチック終了後の2年生

宮崎国際大学 教育学部ニュースレター

教職課程再課程認定における新しい教育カリキュラムに期待すること

教育学部長 福田 亘博



全国の教職課程をもつ大学は、平成29年度（準備）～30年度（申請・認定）にかけて教職課程の再課程認定申請を行い、審査に合格した課程は認定されました。本学部も新しいカリキュラムを申請し、認定をうけました。さて、この新カリキュラムは、令和の新元号となった今年度の入学生から適用されますが、その主な特色と、新カリキュラム導入によって期待されることについて少し説明をしたいと思います。

大きな変更点は、①教科・教職科目の大括り化、②特別支援教育概論や総合的な学習の時間の指導法の必修化、③各教科教育法でアクティブラーニングの視点の導入、④学校インターンシップ科目の導入などです。また、⑤科目によって「コアカリキュラム」化が求められました。いずれも従来から教職課程の課題・問題として認識されていたものです。例えば、④の導入は、初等教育・保育現場における教員・保育者の仕事について、学生が教育実習以外のことを実体験していな

いため、就職後に「こんなはずではなかった」などの理由で退職することがなくなるようにするためです。教員・保育者の仕事を良く理解した上で就職することが期待されます。

また、今回導入された⑤のコアカリキュラム科目では、教員・保育者として必要な知識・技能や考える力等を身に付けるために設置されており、シラバスにはその科目の教育目標に対して授業計画・内容が整合されて記述されています。従って、学生は事前にシラバスを読み、その科目の教育目標と具体的な学びを理解した上で、受講することになり、教育効果も高まることが期待されます。

今年度、このような①～⑤を含む新カリキュラムがスタートしました。今後、これらの教育改革について、教育成果・効果を検証し、さらに充実したものに発展させたいと考えています。

最後に、本学の「礼節と勤労」の教育理念のもと、学生 諸君の教員・保育者になりたいという強い希望が確実に達成できるように、教職員が一丸となって支援していきたいと思ひます。

目次

教職課程再課程認定における新しい教育カリキュラムに期待すること	1
第3期生11名合格、教員採用試験大健闘	1
令和元年度特別対策合宿A・B(2泊3日)を実施しました	2
特別対策合宿での新規採用教員講話より(後輩に伝えたいこと)	2
特別対策合宿を終えて	2
教員採用試験に合格した4年生から後輩へのメッセージ	3
学生の繋がりが深まった栄養会	4
入試広報室より	4

第3期生11名合格、教員採用試験大健闘

学生教職支援センター長 釋迦堂 幾則

第3期生は16名が公立小学校を受験(宮崎県7名、宮崎県以外の県10名、内1名は宮崎県及び静岡県を受験)し、見事11名が合格(合格率64.7%)しました。本年度は、本学から初めて受験する県も複数ありましたが、早くから自治体別の対策を講じ、受験した全自治体で合格者を出すことができ

ました。1年次から本学独自のオプション教育プログラムを継続して受講して来たことに加え、学生一人一人が目標実現に向けた強い意志を持っていたからにほかなりません。大学の支援体制と学生の志が一つになって、今年度も大きな成果を挙げることができました。

宮崎県小学校	教育学部現役生	7名受験	4名合格	教育学部	平成31年3月卒業生	3名合格
				教育学部	平成30年3月卒業生	3名合格
大分県小学校	本学初	教育学部現役生	3名受験	3名合格		
鹿児島県小学校	本学初	教育学部現役生	2名受験	1名合格	教育学部	平成30年3月卒業生
佐賀県小学校	本学初	教育学部現役生	2名受験	1名合格		
沖縄県小学校	本学初	教育学部現役生	2名受験	1名合格		
静岡県小学校	本学初	教育学部現役生	1名受験	1名合格		
宮崎県中学校[英語]	国際教養学部	平成30年3月卒業生	1名合格			
宮崎県高等学校[英語]	国際教養学部	平成25年3月卒業生	1名合格			

令和元年度特別対策合宿A・B(2泊3日)を実施しました

学生教職支援センター長 釋迦堂 幾則

今年も、多くの方々のご協力のもと、右のようなプログラムで教員・保育士採用試験合格のための特別対策合宿A・Bを実施しました。

合宿の目的達成度について4段階評価でアンケート調査をしました。「採用試験に対する自己の課題や今後の対策についての自覚が高まった」について「よい」及び「おおむねよい」と回答した人の割合は100%（昨年度96.1%）、「協調性、責任感、連帯意識が高まった」についても100%（昨年度94.8%）、「積極的交流により資質が高まった」においては98.7%（昨年度92.1%）となりました。このように、大変充実した合宿になりました。

6月下旬から合宿の事前指導やオリエンテーションを行ったことや、実行委員の学生の熱意や責任感及び協調性の高さが充実した合宿につながったものと思います。合宿後は、採用試験対策の相談が増えるなど、勉学や教職への自覚の高まりが見られるようになりました。

特別対策合宿A・B 3日間の主なプログラム

小幼コース 3年生	小幼コース 2年生	幼保コース 3年生	幼保コース 2年生	国際教養学部 3年生
教員採用試験対策	算数	保育者としての心構え		教員採用試験対策
模擬授業（国・算）	教職教養	集団討論練習		教職教養
	個人面接練習	模擬保育		個人面接練習
模擬授業（社・理）	バレーボール			過去問演習
英会話	個人面接練習			
個人面接練習	小論文（講義）	グループ発表会		英語模擬授業
集団討論練習	教員採用試験対策			
レクリエーション（フィールドアスレチック）				
本学出身教員講話（小学校）		本学出身教員講話（保育所）		本学出身教員講話（中学校）
小論文		小論文		模擬授業（英語）アンケート
模擬試験（教職教養・専門教養）アンケート		模擬試験（専門分野）アンケート		
水泳		水泳（希望者）		

特別対策合宿での新規採用教員講話より（後輩に伝えたいこと）

学生のうちに“教師の子どもへのかかわり方”を見ていたことが今、役に立っています！



宮崎市立大塚小学校教諭 福富 詩織
（平成31年3月宮崎国際大学教育学部卒業）

小学校2年生の学級担任として、28人の子どもたちと毎日を過ごす中で、学生のうちに経験しておいてよかったなと思うことがあります。それは「特別支援学生ボランティア」です。大学4年の時に週1回ほど、卒業論文の調査もかねて小学校に足を運び、教師の“子どもへのかかわり方”を見せていただきました。

28人の子どもたちは、28通りの個性を持っています。4月になり、子どもたちへの指導やかかわり方に悩む日々ですが、自分の学級を持つと、なかなか他の先生方の指導の仕方や授業の様子は見る事ができません。学生の頃見せていただいた“子どもへのかかわり方”が、今、私が子どもたちとかかわる上での基盤となっています。

今ある素晴らしい環境を生かしてほしい

宮崎市立福島保育所 日吉 爽
（平成31年3月宮崎国際大学教育学部卒業）



私は幼い頃からの夢であった保育士として現在働いています。まだ半年しか経っていませんが、かわいい子どもたちに囲まれて毎日学びの多い充実した日々を送っています。今回、後輩の皆さんに少しでも参考になることがあれば思い、合宿の場で話をさせていただきました。

後輩の皆さんに伝えたいことは、今ある素晴らしい環境を生かしてほしいということです。例えば大学の授業ではグループワークが多く行われ、自分の意見を伝えたり他人の意見を聞いたりする機会が多くあります。大学でのグループワークで学んだことは、就職活動ではもちろん、現在も大変役に立っています。また、どんな時にも親身になってくださる先生方が多くいらっしゃいます。このような素晴らしい環境を生かして自分の夢を叶えてください。私も大学での学びを生かして日々励んでいきます。



グループごとに活動した水上アスレチックの様子



特別対策合宿でのフィールドアスレチック終了後の3年生

特別対策合宿を終えて

特別対策合宿実行委員会副委員長 教育学部 3年 大野 奈々



今回の合宿では、教員採用試験の二次対策について学ぶことができました。私は、合宿がより学びの深まるものになるように、模擬授業や面接などの事前準備にしっかり取り組んで臨みました。特に力を入れたのが模擬授業の準備です。4教科の課題の中から、当日自分が担当する教科と単元が指定されるシステムだったので教材研究を入念に行いました。

しかし、初めて二次試験の形式で行い、児童の発言や意見を想定しながら授業を展開していかなければならなかったため、戸惑いや不安を感じる事が多く、自分の教材研究の不十分さを痛感しました。

また、実行委員のリーダーとして周りを見ながら行動することの大切さや、責任の重さとプレッシャーをとて感じました。しかし、実行委員で実りある合宿にするために、事前の打ち合わせなどで意見を出し合い計画を立て、実際にみんなをまとめるという経験を積むことで、自分自身の考え方や行動面を大きく成長させることができましたと思います。

今回の合宿を通して、将来教員になるうえでの意識がより高まったと同時に、同じ目標に向かって取り組む仲間との絆をより深めることができました。今回の貴重な経験を今後の教育実践の場で生かしていきたいと思えます。

学生企画

教員採用試験に合格した4年生から後輩へのメッセージ

教員採用試験に合格した学生のうち5つの県から5名の学生が集まり、勉強法などを話し合っって記事を作成しました。

合格したときの気持ち

岩橋：佐賀県の発表が一番最初だったので緊張していた。いい結果が出れば幸先のよいスタートになると思っていたので、無事合格できて良かった。

森：次に結果が出たのが鹿児島県だったね。

森島：勉強を始めてるうちに、合格したっていう気持ちが強まったし、鹿児島は厳しいだろうとこれまでも言われていたからこそ、絶対合格してやるという気持ちでやってきた。受かった時は、自分もやればできると分かって嬉しかったし、これからまた頑張らないといけないという引き締まった気持ちになった。

勉強法について

菅野：宮崎県の傾向として、8割が学習指導要領からの出題であるため、「パスライン」という問題集を活用した。語句を答える穴埋め問題では、問われている箇所以外も覚えるようにした。

岩橋：算数と理科はひたすら問題を解くことが大事。社会など暗記系はとりあえず書く。参考書は一冊か二冊に絞って、自分がここまで進んでいると付箋をつけて管理した。最初は、傾向を見るために色々な過去問題を4、5年分解いて、他の人の勉強法を参考にした。二次試験はメンタルの強さが必要！

森島：私が最初やろうとしたことは、出題範囲を知り苦手分野を知ること。何回やってもできないところを、暗記ブックを作って、そこに書き込んで、バス移動とかの隙間時間に繰り返し見るようにしていた。

清藤：今自分がすべきことはなにかというのを、目的に照らし合わせて明確にすることが大事。勉強時間だけ確保してやっても、やっていることに何のメリットがあるのか分かっていないと勉強する意味がない。二次三次試験については慣れが必要だと思う。だから模擬授業とかを早い段階からやっておいたり、経験しておくことは大事。沖縄はどうだった？



左から

森島夕希帆(鹿児島県立国分高等学校出身)、清藤駿希(大分県立宇佐高等学校出身)、岩橋海人(佐賀県立武雄高等学校出身)、森 美来(沖縄県立球陽高等学校出身)、菅野嘉哉(宮崎県立宮崎北高等学校出身)

森：過去問から解いても、全然点数は取れないと思ったから、基礎知識を蓄えるために、「東京アカデミー」の問題をひたすら解いた。10回は繰り返しやった。まだ足りないと思ったところは「自由自在」のテキストからやっていた。教職教養は全国の過去問題を解いた。分からないところ間違えたところはルーズリーフにまとめて、それを隙間時間に見た。

後輩へのメッセージ

森：生活リズムを整える、みんなと一緒にやる、モチベーションのあげ方を知っておくことの3つかな。

岩橋：ご飯は食べよう、ほんとに。

清藤：勉強時間だけにこだわらないでほしい。

岩橋：体調悪いときはもう割り切って休むのも大事。みんなやってるから焦る気持ちはあるけれど。

清藤：それから、今自分がやってることは本当に正しいのだろうかと思うことに絶対陥ってしまう。

岩橋・森・森島：それめっちゃわかる。

清藤：その時に自分の信じた方法をやり抜くか、ほんとにこれでいい！って思えるまで先輩に話を聞くとか、そういうのは大事だと思う。

森：他に言い残したことがある？

全員：がんばれ。(笑)

学生企画

学生の繋がりが深まった栄養会

栄養会実行委員長 教育学部 3年 池田 祐介

5月24日に教育学部恒例の栄養会が開催されました。いつも明るく、笑顔であふれる4年生の先輩方ですが、教員採用試験を間近に控えた今、私たち後輩が目にするのは普段の笑顔とは異なる真剣な表情で、必死に勉強に励んでいる先輩方の姿です。その姿を見て「先輩方の力になりたい」と1～3年生の後輩たち24名が栄養会スタッフとして、企画・運営に臨みました。

料理は、先輩方が楽しみながら食べられるようにと、たこ焼きと焼きそばを作りました。料理だけではなく装飾にもこだわり、懐かしい思い出の写真を掲示したり、後輩たちからのメッセージカードをプレゼントしたりと、お腹も心も満たすことのできる空間を演出できたのではないかと思います。

会の終盤には、4年生一人ひとりの今の心境と決意を聞く時間も設けられ、先輩方の熱い思いを受けて心が揺

さぶられる場面もありました。今年もより一層、宮崎国際大学教育学部学生の繋がりが深まった栄養会になったのではないのでしょうか。後輩一同、先輩方の健闘を心より祈っています。



栄養会の集合写真



個人面接練習の様子

教員採用試験二次試験直前対策を実施しました

今年度は一次試験終了後の2週間、教員採用試験二次試験直前対策講座を実施しました。教員採用試験を受験する県が6県に及びましたので、各県の二次試験に対応させた対策講座を実施しました。個人面接練習、集団討論練習、模擬授業練習、英会話練習、ピアノ伴奏弾き歌い練習等を行い、学生に大変好評でした。学生たちは「やるだけのことはやったので、自信をもって試験に臨みます。」と決意を述べていました。

週末キャンパス見学会 & 相談会のご案内

大学について知りたい、入試の相談をしたい！という受験生・保護者向けの週末見学会です。場所は全て本学です。

内容/学部説明、AO・推薦入試対策講座（自由参加）、個別相談

時間/10:00~12:00 (9:40~受付開始)

お申込みは
こちらから



第6回

令和2年1/25 (土)

第7回

令和2年2/22 (土)

第8回

令和2年3/14 (土)

入試情報



学生募集要項



大学案内



お問合せ先/入試広報部 TEL:0120-85-5931

MAIL: admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

宮崎国際大学

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931

FAX: 0985-84-3396

ホームページ: http://www.mic.ac.jp

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科



宮崎国際大学